

平成17年度 試験研究評価（外部評価）結果

| 番号 | 事業名 | テーマ名 | 評価段階 | 担当部 | 開始 | 終了 | 所内総合評価 | 外部総合評価平均 | 外部総合評価 | 委員 | コメント(原文) |
|-----|------------------|----------------------------------|--------|---------|-----|-----|--------|----------|--------|-----|--|
| 1 | 新方式木質チップボイラー開発事業 | 新方式木質チップボイラーの開発 | 事後 | 電子機械技術部 | H15 | H16 | 4 | 4.3 | 4 | A委員 | 今後の普及活動が重要。“Buy・Venture”的運動が参考になるのでは。(県の施設への導入を積極的に行う) |
| | | | | | | | | | 4 | B委員 | 装置としての性能は満足できるレベルにあると思われるが、チップサイロを含めたパッケージ価格がどれ位になるか。また、チップの供給体制が確立されているかによって需要の度合いが違ってくる。 |
| | | | | | | | | | 4 | C委員 | 木質バイオマスエネルギーの有効利用には、かねてより、生材チップを燃やせるボイラーの開発が必要だと考えていた。実現できそうなので期待している。高含水率チップの水分調整は、チップ製造工場にて行うのが低コストである。石灰分を含んだ水の対策:公衆浴場を経営していた経験:木質燃焼ボイラーの通水熱交換パイプが2年に一度破裂し、交換を要した。石灰が内部に沈着硬化するため。 |
| | | | | | | | | | 4 | D委員 | 県内に豊富にある木質バイオマスを利用するという点で、県の研究機関が優先的にとりくむべき課題である。詳しく聞けなかったので評価はむづかしいが、大いに成果が期待される。 |
| | | | | | | | | | 4.5 | E委員 | チップボイラーの開発は、地域の振興を推進する上でも大きな意味をもつ。県内へのボイラー普及のためには、燃料としての木材チップの供給システムの構築が課題。200kwタイプ以上の開発も期待される。(企業に対して) |
| | | | | | | | | | 4 | F委員 | 高水分含有率チップ燃焼技術開発などの課題を短期間(2年間)で解決。17年度内に受注にこぎつけたことは高く評価される。今後は、デザインの改善、木質系ハウスメーカーとのタイアップ等により高級品としての商品開発も目指してほしい。 |
| | | | | | | | | | 4 | G委員 | ボイラーはライフラインの一部として考えられ、メンテナンス体制の確立が必要と考える。(チップ原料の安定供給が確立されていない現状でのバックアップバーナーは意義がある)販売に関しては行政サイドのフォローを期待し、容量アップ品の開発は民間に任せ、新たなフィールドに立って技術的な点を絞りこんでの支援を期待します。 |
| | | | | | | | | | 5 | H委員 | 費用対効果、知的財産の確保等試験研究としては極めて完成度が高い。県行政当局との連携で普及に力を注ぐべき。 |
| 2 | 戦略的技術開発支援事業 | ZnO単結晶基板の応用に関する研究 | 中間(終了) | 電子機械技術部 | H15 | H17 | 4.5 | 4.1 | 4 | A委員 | 種々のセンサー等の開発の進捗状況は評価できる。それらの市場動向を常に監視する必要がある。その意味でも、センサーの適応範囲をもう少し明確にする必要がある。例えば、UVセンサーのターゲット(だれが、何に使用してそれからどう動くのか)は不明。 |
| | | | | | | | | | 5 | B委員 | 単結晶の高純度化と大型化が課題。応用製品開発についても、市場開拓を並行して行うことが必要と思われる。 |
| | | | | | | | | | - | C委員 | 専門外のため、評価できず。 |
| | | | | | | | | | 4 | D委員 | 県内企業を支援して、県の産業振興を図ることも、県の研究機関の重要な役割である。これを詳しくは分らないが、相当画期的な技術であり、大いに成果が期待できる。 |
| | | | | | | | | | 3 | E委員 | なぜ県の重要プロジェクトなのか?よく理解できなかった。(企業の重要プロジェクトなのでは?) |
| | | | | | | | | | 5 | F委員 | 県の重点プロジェクトであり、政策上重要な課題。最終年度(17年度)に研究内容の一部「紫外線センサーの研究開発」が地域新生コンソーシアムに採択され、事業化に向けて大きく前進、新しく展開している点が評価される。 |
| | | | | | | | | | 3 | G委員 | 期待は大きいですが、単結晶ZnOの安定製造・供給がネックとなると本事業が大きいダメージを受ける。評価方法の確立と合わせ、その評価結果のフィードバックを受けて、本当によいものが供給できるかをずっと追い込んでいただきたい。 |
| | | | | | | | | | 4.5 | H委員 | 研究の進捗度等については極めて秀れている。知的財産の整理、研究員への配分等、モデルケースとなりうる課題であり、慎重に進められたい。 |
| 4.5 | I委員 | 非常に高度な研究と思います。自分には内容が難しく評価が困難です。 | | | | | | | | | |

平成17年度 試験研究評価（外部評価）結果

| 番号 | 事業名 | テーマ名 | 評価段階 | 担当部 | 開始 | 終了 | 所内総合評価 | 外部総合評価平均 | 外部総合評価 | 委員 | コメント(原文) |
|----|-------------|------------------------|--------|---------|-----|-----|--------|----------|--------|-----|--|
| 3 | 未定 | 塗装剥離用ドライアイスプラスチック装置の開発 | 事前 | 電子機械技術部 | H18 | H19 | 4 | 3.7 | 4 | A委員 | 意表をついた面白いテーマである。剥離達成に必要な条件、それを可能にする装置の条件など、定量的な目標が必要、理論的な考察がベースには必要である。ドライアイスの機械的特性の把握には興味あり。 |
| | | | | | | | | | 4 | B委員 | 小型高性能であれば、市場が広いと思われる。剥離能力の強化、ドライアイス硬度の維持がポイントになる。 |
| | | | | | | | | | 3 | C委員 | 鉄骨建築、橋梁等の塗装剥離に実用化できるよう、共同研究を目指したらどうか。 |
| | | | | | | | | | 4 | D委員 | 当面、道路標識の塗装の剥離にしばっているようであるが、相当応用範囲は広いと思われるので、汎用性のあるものにして頂きたい。 |
| | | | | | | | | | 4 | E委員 | 経済効果(12億円)の算出された背景についての説明がほしかった。 |
| | | | | | | | | | 3 | F委員 | 剥離効率、コスト、ドライアイス(CO ₂)使用による環境への影響などについて研究開始前に十分なFS調査研究を実施する必要がある。 |
| | | | | | | | | | 3.5 | G委員 | おもしろい研究と思われる。ただし、塗装剥離の対象品・開発のポイントを絞り込んでいただきたい。基礎データとして、コスト・環境負荷の点は、数字で他の処理との比較予想を提示して欲しい。また、センター内での他部門との連携をし、工程をつなげた提案となることを期待します。(塗装関連業者へのアンケートもおもしろいと思う) |
| | | | | | | | | | 4 | H委員 | 予備試験の段階で、効果は十分に予想できる。研究者の予測以上の経済効果も高いと考えられ、企業等との連携による資金獲得も可能では。 |
| | | | | | | | | | 4 | I委員 | 自分には難しく評価が困難ですが、何か他の分野へも生かせる研究なのではないかと思います。 |
| 4 | 支援研究活動活性化事業 | 高性能安全漆塗料の開発と実用化 | 中間(新規) | 企画デザイン部 | H17 | H18 | 2.5 | 3.4 | 3 | A委員 | 漆塗料開発はセンターの伝統的テーマである。しかし、インパクト性がない。例えば、興味ある家具屋さんと共同研究などの方が良いのでは。(外部資金の導入) |
| | | | | | | | | | 3 | B委員 | 漆の密着性・耐久性・審美性を確保するためのプロセス開発が必要と思われる。 |
| | | | | | | | | | 4 | C委員 | 漆塗装家具では、直接コストダウン効果は少ないが、従来、高湿度の環境に一週間入れておく必要がなくなるので、品質向上に効果があると思う。一日に数回塗ることが可能になれば、納期短縮に著しい効果が期待できる。今後は漆の抗菌効果が、漆塗膜の使用・摩耗により、どれほどの期間有効であるか、何年で塗り増しが必要になるか試験研究を期待する。 |
| | | | | | | | | | 4 | D委員 | 漆の用途拡大という観点から注目すべき研究と言える。工業製品に活用できれば伝統工芸の塗料から脱却できます。 |
| | | | | | | | | | 3 | E委員 | ・製造者側の期待度は大きいと思うが、現在の低迷する漆器市場をみた場合、本開発が漆の需要拡大に大きな影響を与えるとは思えない。 ・特徴を活かし、新規製品への活用をめざした方が経済効果が高いかもしれない。 |
| | | | | | | | | | 3 | F委員 | 目標(1時間で硬化する漆調整技術の実用化と商品化、漆器製造時間の1/2短縮など)が明確であるが、研究に遅れが見受けられ目標達成はかなり困難か。 |
| | | | | | | | | | 3 | G委員 | 評価の遅れはあるが、漆生産No.1という本県の強みを伸ばす研究として期待したい。また、伝統工芸の分野での利用拡大が難しいようであれば、県内の企業から被塗装物をいただいての試作・評価サンプル作成・評価基準を聞いての評価をおこない、第2の車用インパネの可能性を探られたらどうか。(マーケットの調査を含め、先行したいところもある) |
| | | | | | | | | | 3.5 | H委員 | 市場性を拡大させる努力を併行しながら試験研究を進めるべきである。海外にも通用するように。 |
| | | | | | | | | | 4 | I委員 | 貴重な研究と思います。長期的な視点も持ってぜひ進めていただきたいと思います。 |

平成17年度 試験研究評価（外部評価）結果

| 番号 | 事業名 | テーマ名 | 評価段階 | 担当部 | 開始 | 終了 | 所内総合評価 | 外部総合評価平均 | 外部総合評価 | 委員 | コメント(原文) |
|----|-----------------|----------------------------|--------|-------|-----|-----|--------|----------|--------|-----|---|
| 5 | 産業廃棄物再資源化技術開発事業 | 溶融・結晶制御技術による産業廃棄物の無害化と有効活用 | 事後 | 環境技術部 | H15 | H16 | 4 | 4.2 | 5 | A委員 | 産廃処理技術の研究として、高く評価できる。この成果を如何に活用するかを県の施策に反映すべし。骨材への利用は積極的に展開すべきである。 |
| | | | | | | | | | 4 | B委員 | コンクリート骨材及びアスファルト材規格に合致する商品化が可能であるか。また、溶融コストが、排出者の負担に耐える範囲であるかどうかを検証する必要がある。 |
| | | | | | | | | | 4 | C委員 | 県境スラグ処理については県民の一人として重要だと思う。本研究では目的達成出来ていることを評価する。 |
| | | | | | | | | | 4 | D委員 | 県境の不法投棄物の無害化、有効利用は、岩手県にとって重大な研究テーマであり、県の研究機関としては是非取り組むべきである。手法については種々あると思われるが、骨材利用からさらに拡大されることを望む。 |
| | | | | | | | | | 4.5 | E委員 | 海の副産物である未活用のカキ殻も活用できないでしょうか？ |
| | | | | | | | | | 4 | F委員 | 県境の不法廃棄物処理という緊急課題に対して素早く対応、短時間(2年間)で一定の成果を得たことは高く評価される。技術移転により製品化、事業化が進めば、「環境の産業化」の優れた地域モデルとなる。 |
| | | | | | | | | | 4 | G委員 | 県境不法投棄への対処は緊急性を要する課題であり、今後の後退が無いようにお願いします。(落ち着いた時点で、他分野での応用を期待します) |
| | | | | | | | | | 4 | H委員 | 溶融スラグの弱点を長所に変えるような・・・高機能資材(?)として水平思考が出来ないのでしょうか？「物」が出来たら売る方向が大切。 |
| | | | | | | | | | 4.5 | I委員 | 緊急性の高い重要な研究と思います。鋳物スラグについても実用化を進められると良いと思います。 |
| 6 | 支援研究活動活性化事業 | 未利用木材を活用した緑化用環境資材の開発 | 中間(新規) | 環境技術部 | H17 | H18 | 3 | 3.3 | 3 | A委員 | 製品のユーザーをさらに広げることで、可能性は高い。生分解性プラスチックの適用を早急に進める必要がある。(バインダーとしての強度はそれ程いらないう) |
| | | | | | | | | | 2 | B委員 | 商品価値をどの程度評価されるかが決め手になるとされる。 |
| | | | | | | | | | 3 | C委員 | 特に疑問なし。こんなものだと思う。 |
| | | | | | | | | | 4 | D委員 | 県内に大量にあると思われる未利用木材の活用を図る研究はまさに県研究機関の使命であり、その点でまず評価できる。また、この資材はさらに屋上緑化などにも広く応用できそうであり期待できる。 |
| | | | | | | | | | 4.5 | E委員 | 環境分野での異業種の連携事業として、材料資源循環、雇用の増大等経済効果が大いに期待される事業と思われる。資材として岩手県内のダム流木の活用についても検討してほしい。 |
| | | | | | | | | | 3 | F委員 | ポーラスコンクリートと未利用木材活用保水ボードを複合化した緑化環境資材の開発に関するものであるが、競合品との比較優位性、研究開発要素、研究の発展性がやや希薄。 |
| | | | | | | | | | 3 | G委員 | 緑化とコンクリートとの繋ぎはおもしろいと思う。本製品の必要性・効果を明確にするために、本製品・ポーラスコンクリート・他の施工方法との比較が欲しい。本製品の市場調査・産業界との連携などに関しては、行政サイドの支援を期待する。 |
| | | | | | | | | | 3.5 | H委員 | 用途開発も同時に考え乍ら進めるべき。農業など他の関連部門とも協議し、研究の方向付けをすべきと考える。 |
| | | | | | | | | | 3.5 | I委員 | 屋上緑化など他の利用方法が更に有効であるように見えました。 |

平成17年度 試験研究評価（外部評価）結果

| 番号 | 事業名 | テーマ名 | 評価段階 | 担当部 | 開始 | 終了 | 所内総合評価 | 外部総合評価平均 | 外部総合評価 | 委員 | コメント(原文) |
|----|----------------|---------------------------|------|-------|-----|-----|--------|----------|--------|-----|--|
| 7 | 都市エリア産学官連携促進事業 | トリアジンチオール有機ナノ薄膜の高機能発現研究開発 | 事後 | 材料技術部 | H14 | H16 | 4.5 | 4.1 | 4 | A委員 | この研究は企業での実際の展開の実績が必要であろう。基礎的にはクリアーしたと判断している。 |
| | | | | | | | | | 4 | B委員 | 耐摩耗・耐熱・経済性などが、他の材料と比べてどの程度優れているか比較できないので、そのデータがあれば解り易い。離型材として金型以外にも応用することができれば、市場が更に増えると思われる。 |
| | | | | | | | | | - | C委員 | 専門外のため、評価できず。 |
| | | | | | | | | | 4 | D委員 | 岩手発の先端的技術の確立を目指す研究として取り組まれるようであり、成果を大いに期待したい。 |
| | | | | | | | | | 4.5 | E委員 | 産学官連携の大きな成果が期待できる。 |
| | | | | | | | | | 4 | F委員 | 研究終了後も引き続き技術移転が進められており、岩手県発のトリアジンチオール有機ナノ薄膜作製技術の事業化が期待される。 |
| | | | | | | | | | 4 | G委員 | 樹脂バックアップ金型の目的は、デザインから試作品作成までの開発期間短縮と試作金型コストの抑制を狙っていると思われる。センター内でそのシステムモデルをつくり検証・企業への発信を行って欲しい。その際、各種研究会への開示も今後の普及に有効と思われる。(従来からの繋がりには判りやすいかもしれないが、処理技術の一部であるトリアジンチを前面に出すのではなく、別なネーミングも検討していただきたい。) |
| | | | | | | | | | 4.5 | H委員 | トリアジンチオールの多岐な応用の範囲だろうと推測する。産学官連携の好事例として更なる発展を期待する。 |
| | | | | | | | | | 4 | I委員 | 自分には難しいテーマで評価が困難です。発展を期待します。 |
| 8 | 未定 | コールドスプレー法による高品位金型再生技術の開発 | 事前 | 材料技術部 | H18 | H20 | 4 | 3.7 | 4 | A委員 | 金型補修技術として注目できる。新たな技術開発には基礎的データの蓄積と原理・現象の理論武装が必要である。種々のパラメーターの中で、粉体の粒径や形状というパラメーターの寄与率はいかほどか？(研究の優先順位) |
| | | | | | | | | | 4 | B委員 | 基材に材質変化を与えることなく補修が可能であれば、経済効果は大きい。 |
| | | | | | | | | | 3.5 | C委員 | G委員から何度も疑問を提示されていたように「本当にこの技術で実用に耐える耐久性があるのか」十分に試験されることを希望する。 |
| | | | | | | | | | 4 | D委員 | 金型補修の技術開発の必要性は理解できる。研究体制、予算などが十分確保されれば、大いに成果が期待できる。 |
| | | | | | | | | | 3.5 | E委員 | 研究成果を活用する立場となる複数の企業の参加を望みます。 |
| | | | | | | | | | 3 | F委員 | コールドスプレー法は数年前から実用化されたばかりの新技术。金型補修技術としては新規性があるものの、自動車用大型金型などへの適用や自動車関連産業への技術支援が可能となる技術なのか不明。文献調査、技術調査を確実に実施してからの研究開始が望まれる。 |
| | | | | | | | | | 4 | G委員 | 金型全般に関する全ての修理方法をフォローできるという発想で進めていただきたい。ものづくりで「金型」「鑄造」をターゲットとしているが、型製作後の保全あるいは修理といったところの分野では、センターの分析・評価技術、加工技術がより生きてくる。進められることを期待する。センターに関係のある研究会も何らかの協力ができると思う。 |
| | | | | | | | | | 3.5 | H委員 | 「投入勢力」が小さいのでは…。 |
| | | | | | | | | | 4 | I委員 | 省資源にも貢献するのならば、妥当性の高い研究と思います。自分には評価が困難ですが、発展を期待します。 |

平成17年度 試験研究評価（外部評価）結果

| 番号 | 事業名 | テーマ名 | 評価段階 | 担当部 | 開始 | 終了 | 所内総合評価 | 外部総合評価平均 | 外部総合評価 | 委員 | コメント(原文) |
|----|----------------|--------------------------------|------|-------|-----|-----|--------|----------|--------|-----|---|
| 9 | 県産清酒品質向上研究推進事業 | 県産清酒の品質向上に関する研究 | 事後 | 醸造技術部 | H14 | H16 | 3.5 | 3.3 | 3 | A委員 | センターが技術開発し、それを各社がもらって事業展開する仕組みは古い。例えば、低アルコール清酒の開発段階から企業が参画して行く姿勢が必要であろう。 |
| | | | | | | | | | 3 | B委員 | 最近焼酎の需要が増えている。清酒・焼酎と異なる独特の風味を持つ低アルコール酒が開発されれば、新たな需要が期待できる。 |
| | | | | | | | | | 3 | C委員 | 好適米開発は、酒造米として有名な山田錦、みやま錦との比較検討が必要。女性に好まれる酒質は、調査対象者が所内の女性職員だけというのは問題がある。アンケート調査対象者の選択方法を再考する必要がある。 |
| | | | | | | | | | 3 | D委員 | 岩手県産の米で県産の清酒の商品開発を行うことはある程度評価できる。しかし、米の用途としては、燃料用エタノール化などの新技術の開発も必要であり、研究の重点化に関して再考されたい。 |
| | | | | | | | | | 3 | E委員 | 低アルコール清酒は、岩手県独自の研究着手ではなく、他県でも推進しているが、市場との差別化をどのように考えているのか？海外へ輸出する清酒の商品開発も視野にいれてもよいのでは？ |
| | | | | | | | | | 3 | F委員 | 新清酒「吟ざんが」、「ざんおとめ」を県内25社で商品化、マスコミ数社に取り上げられたことは、県産清酒のイメージアップ、酒造業界の活性化にも貢献したものと推察される。 |
| | | | | | | | | | 3.5 | G委員 | マーケットに関する調査には、センター外への外注も必要と思われる。また、センターとしては、評価基準を明確にすべく、評価システム開発が必要と感じました。 |
| | | | | | | | | | 4 | H委員 | 非常に良いものをつくれたのだと思います。今後、更に良いものをつくるため、より利益のとれるものをつくるため、MR、官能評価のシステムを構築して下さい。 |
| | | | | | | | | | 4.5 | I委員 | 低迷する清酒業界で、吟ざんが・ざんおとめの清酒を商品化でき、かつ好評をいただいているので、非常に大きな効果があったと言えます。低アルコール酒の技術については、県内の業界に更にPRしていただければ幸いです。 |
| 10 | 地球環境保全試験研究事業 | 生分解性プラスチックの適正使用のための分解菌データベース作成 | 事後 | 食品技術部 | H14 | H16 | 3 | 3.0 | 2 | A委員 | 単にプロジェクトに参加して、言われたデータを取っただけではレベルは低い、独自に水域のデータを取っても、数が少なく、これをいかに活用するかの戦略の提示が欲しい。分解できる菌が見つかったのか不明である。 |
| | | | | | | | | | 3 | B委員 | なし。 |
| | | | | | | | | | 2 | C委員 | 調査対象地が極めて少ないのが残念。奥羽山系、北上川流域、北上山系、沿岸部という選択が必要。 |
| | | | | | | | | | 3 | D委員 | 生分解性プラスチックは、今後、農産物加工の一大分野として期待される。今回の研究は、そのための基礎研究であり、国の委託研究の一環であることをふまえると、一定の効果があったと評価できる。 |
| | | | | | | | | | 4 | E委員 | 分解菌データベースの作成は、地味ではあるが今後ますます必要とされる分野と思われます。技術センターが核となって、他県とのネットワークを構築して研究できないでしょうか？(データを増やすため) |
| | | | | | | | | | 3 | F委員 | 産総研からの委託研究として、東北地域の土壌を対象にBDP分解微生物の定量を担当、県内の水域についても調査してデータベース作製に貢献。今後は、本事業で得られたノウハウ、人的ネットワークをうまく有効活用してほしい。 |
| | | | | | | | | | 3 | G委員 | 東北地区にあって本テーマのような依頼研究を受けられるレベルであるという点は理解しました。今後地域テーマへの展開を期待します。 |
| | | | | | | | | | 3.5 | H委員 | 今後の予備的研究として据えたい。採取地点があまりにも限局されており、普遍化しにくいのでは。 |
| | | | | | | | | | 3.5 | I委員 | 研究の性格上やむを得ないでしょうが、まだややデータ不足かと思えます。このデータを充実させれば、他のいろいろな分野での利用が期待できるのではないかと思います。 |

平成17年度 試験研究評価（外部評価）結果

| 番号 | 事業名 | テーマ名 | 評価段階 | 担当部 | 開始 | 終了 | 所内総合評価 | 外部総合評価平均 | 外部総合評価 | 委員 | コメント(原文) |
|----|---------------|--|------------|-------|-----|-----|--------|----------|--------|-----|--|
| 11 | 県産小麦使用加工品開発事業 | 県産小麦を使用した加工品開発 | 中間 (終了) | 食品技術部 | H14 | H17 | 4 | 3.8 | 3 | A委員 | 食品開発は作ることが目的なら、研究は評価できるが、パンやビール菓子がいくら売れて、県産小麦の生産量拡大に貢献したかどうかであろう。その視点が弱い。ただし、ビール菓子は可能性があるので、期待したい。 |
| | | | | | | | | | 3 | B委員 | なし。 |
| | | | | | | | | | 4 | C委員 | すべき調査・研究は実行していると思う。一般消費者、専門家といわれる人にも“意外”と思われる用途・研究も希望する。 |
| | | | | | | | | | 4 | D委員 | 岩手県産の主力小麦であるナンブコムギの需要拡大に寄与しており、県の研究機関の成果として高く評価できる。 |
| | | | | | | | | | 4 | E委員 | 学校給食パンへの利用(食育)を全力で実現すべき、その第一歩によって市場が拓かれると思います。 |
| | | | | | | | | | 4 | F委員 | 実用化を目指して業界と連携、新商品開発に取り組み、ピーアシュタンデンは販売実績が上がりつつある。今後は、これらの製品および技術が当研究センターの研究開発によるものであることを大いにアピールして頂きたい。 |
| | | | | | | | | | 4 | G委員 | 原料供給体制が整えば有効なものになると思います。原料の生産力(安定した収量確保)、製粉を含めた安定品質の維持が消費拡大のポイントとなるようですので、他の試験場への働きかけをセンタートップ・行政サイドからお願いします。 |
| | | | | | | | | | 4 | H委員 | 折角の「成果」でもあり、「センターが発信した」成果であることを強調されたい。例えば、「雑穀」のような岩手特産品との連携を考えたい。 |
| 4 | I委員 | 食料生産県であることや、中小企業が多い本県の食品加工業界から見て、効果の大きな研究と思います。更に、他の雑穀等を使用した加工品開発もされると良いのではないかと思います。 | | | | | | | | | |